

社会技術研究開発事業
令和5年度研究開発実施報告書

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

シナリオ創出フェーズ

「性虐待などの被害児が心身の回復につながる医療機関
をハブとするCAC(Children's Advocacy Center)モデル
の構築」

研究代表者

田上 幸治

神奈川県立病院機構

神奈川県立こども医療センター

臨床研究所 部長

協働実施者

溝口 史剛

前橋赤十字病院 小児科 副部長

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2 - 1. 研究開発目標	2
2 - 2. 実施内容・結果	2
2 - 3. 会議等の活動	9
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	10
4. 研究開発実施体制	10
5. 研究開発実施者	11
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	14
6 - 1. シンポジウム等	14
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	14
6 - 3. 論文発表	14
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	15
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	15
6 - 6. 知財出願	15

1. 研究開発プロジェクト名

性虐待などの被害児が心身の回復につながる医療機関をハブとするCAC(Children's Advocacy Center)モデルの構築

2. 研究開発実施の具体的内容

2-1. 目標

(1) 目指すべき姿

本プロジェクトが取り組む社会課題は、子ども虐待、特に性虐待の被害にあった児への取り組む仕組みを変えることである。児童相談所への虐待相談件数は年々増え、2020年には20万件を超えている。その中で、性虐待は全体の1.1%となっている。欧米国ではすべての虐待の中で、性虐待の割合は10%弱、米国でも8.5%（2016年）であり、日本では被虐待児が開示できず放置されたままの状態があると思われる。その原因として、性虐待は歴史的にもっとも見つけにくい虐待であるが、日本では被害を受けた子どもに優しい環境で対応できる仕組みがないことも原因である。後に精神疾患や成人病の罹患率や自殺率も高いこの被害児を早く救わなければならない。

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。子どもに対する虐待、搾取、及びあらゆる形態の暴力を撲滅する。あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

(2) 研究開発プロジェクト全体の目標

● 系統的全身診察の普及プロジェクト

系統的全身診察については、警察/検察や児童相談所の認知も不十分で、対応できる医療機関も限られている。この技法を医療機関に積極的に広めるための枠組みを整備するために、性虐待対応の研修プログラムを新たに作成する。性被害にあった児に系統的全身診察を行う医師がいない地域での人材育成を行う。系統的全身診察の普及グループが研修プログラムを作成し、各地域で研修を行う。

● MDT 促進プロジェクト

虐待対応において、多機関連携（MDT）は欠かせない。しかしながら、医療、司法、児童相談所の役割は異なり、MDTは課題の一つである。これらを解決するためには、お互いの役割を理解し、協力していくことが必要である。医療がハブになり虐待の医学的な勉強会を開催し、多機関連携を促していくことが可能である。研究代表者の田上は、警察/検察、裁判官、児童相談所、子どもの権利擁護弁護士、医療者と『かながわ子ども虐待勉強会』として2016年から年2回、神奈川県立こども医療センターで開催してきた。MDT促進事業グループがこの勉強会の資料を編集し、乳幼児の頭部外傷（Abusive Head Trauma: AHT）、虐待による熱傷、傷痕の虐待診断、ネグレクトによる衰弱、虐待による骨折などの勉強会資料を作成する。CACモデルネットワークグループの各病院が主催者となり、警察/検察、児童相談所、医療者などを集め、子ども虐待についての勉強会を行う。

● CACモデル事業

性虐待を受けた児の聞き取り、診察、心のケアを子どもに優しい環境でワンストップ対応し、CACモデル事業として課題を抽出する。KGIは子どもに優しい環境で、被害を受けた児が聞き取り、診察をワンストップで行い、心身の回復に向かうことである。

● CACネットワーク（Hospital association for CAC: HACAC 連絡協議会）

性暴力救援・性虐待に積極的に取り組んでいる医療機関で情報交換を行いながら、これらの施設でのCACモデル構築について意見交換を行い、情報発信していく。

2 - 2. 実施内容・結果

研究開発項目	初年度 (2022年10月 ~2023年3月)	2年度 (2023年4月~2024年3月)	最終年度 (2024年4月 ~2024年9月)	以降 研究開発期間終了後の展開
系統的全身診察の普及 プログラム作成 診察グループ 研修活動 診察グループ	→	→		→ 有料で継続
CACモデル事業 一次モデル事業 CACグループ 二次モデル事業 CACグループ	→		→	→ 他の地域で継続
MDT促進事業 プログラム作成 MDTグループ 地域でのMDT MDTグループ	→	→		→ 他の地域で継続
CACネットワーク HACAC連絡協議会 HACACグループ	→ 学会発表	→ 学会発表		→ 啓発活動や施設基準の評価

(2) 各実施内容

● 系統的全身診察の普及プロジェクト

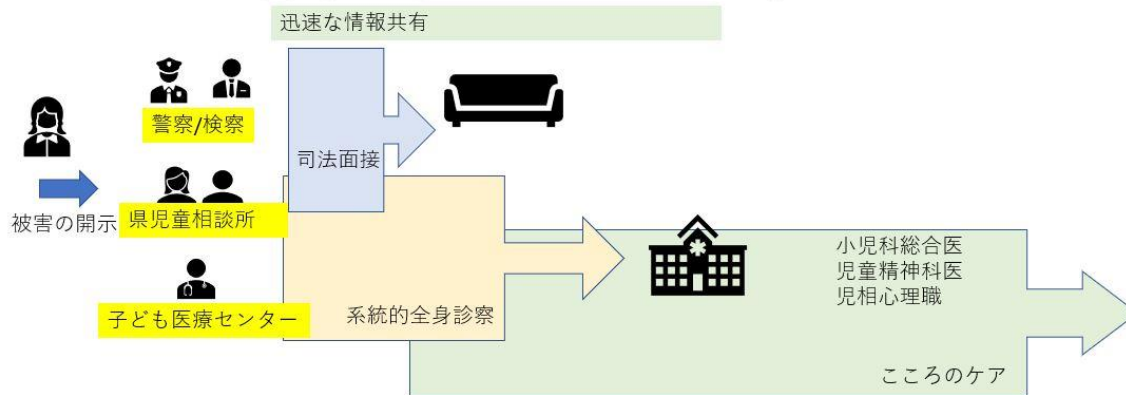
2023年秋までに系統的全身診察についての性虐待対応の研修プログラムを新たに作成した。2024年1月20.21日に第一回包括的性虐待対応プログラム研修として群馬県前橋市で実施した。医療者、警察、検察、児童相談所職員など約20名が参加した。研修を振り返るとともに、研修内容の課題解決に向けて、2024年5月10日、性虐待の診療で第一人者であるマーティン フィンケル教授を招き、webで勉強会を開催した。

● CACモデル事業

2019年本邦で二番目に設立されたCACであるNPO子ども支援センターつなぐでの、性虐待被害児の聞き取り、診察、その後のケアについての活動をモデル事業として計画していた。NPOつなぐは様々な企業や財団などからの支援をうけており、また当プロジェクトが目指す医療機関がハブとなるCACモデルとは異なることから計画を変更した。

欧米では被害児が子どもに優しい環境で聞き取り、診察、心のケアをワンストップで受けられる制度（Children's Advocacy Center: CAC）モデルが標準化している。神奈川県では性虐待の被害児の診察については当院が県児童相談所から診察を委託事業として請け負っている。神奈川県性的虐待調査報告書（第5回）（<chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.pref.kanagawa.jp/document/s/15797/file4.pdf>）にあるように、被害児の9%しか診察を受けていない状況である。報告書にもあるように、「重篤な事案でなくても系統的全身診察を実施できると良い。診察を通して新たな被害が明らかになったり、言えずに自身の身体を心配している子どもがいるかもしれないからである。また、症状が無くても性感染症の罹患が明らかになる可能性もある。」とのように診察は心身の回復には不可欠なものである。神奈川県は先進的にこの問題に取り組んでいますが、現状では診察の割合が低いこと、診察までの時間がかかることが課題である。このことを改善するためには、早期からの多機関での情報共有が必要である。これにより、被害の開示から聞き取り、診察までの時間の短縮とその後心のケアを広く、長期的に行える。当院は性虐待の診察を行える医師が多数いることと、児童精神科も併設され、心の診療の係られる総合診療医もいる。性虐待対応の早期からの多機関の情報共有と聞き取り、診察、心のケアのワンストップでの対応はいわば神奈川県CACモデルと呼べる仕組みであり、他地域への模範となる。

神奈川版CACモデル（案）



児童相談所と病院が早期に情報を共有し、聞き取り、診察の日程調整。児童相談所の聞き取り、司法面接、系統的全身診察の情報を捜査、調査、支援、心のケアに利用する。早期からの情報共有で、司法面接、系統的全身診察、心のケアをワンストップで対応。小児科医（総合診療医）が長期的なフォローを行う。

これにより各機関の業務の軽減につながる、子どもに優しい環境でワンストップ対応できる。

また、マネジメントシステムについて、National Child Alliance はCACの設置基準を定めている (<https://www.nationalchildrensalliance.org/ncas-standards-for-accredited-members/>)。これをもとに本邦での設置基準を作成する。

● MDT 促進プロジェクト

虐待の対応においてMDTは、米国でCACが設立された理由からもわかるように最も重要といってよいが、同時に最も難しい課題である。各機関の役割は異なり、各機関の他の機関のニーズと各機関が提供できる技術シーズは異なる。それ故、お互いが協力しながら子どもの最善の利益のために役割を果たす必要がある。お互いが各機関の可能な役割、不可能な役割を理解する必要があるが、はじめに医療が虐待の医学診断について児童相談所や司法に説明する必要がある。虐待には身体的虐待から心理的虐待まで様々で、重症度も様々である、しかしながら司法が関与するような虐待事例は、重度な身体的虐待や性虐待であることが多い。この場合、医学的診断が虐待診断に重要である。また、医療は子どもの代弁者としての役割はあるが、中立的な立場であるため虐待に係る様々な機関の中でハブ（ネットワークの中心）になりやすい。それ故、医療がハブになり虐待の医学的な勉強会を開催し、多機関連携を促していくことが可能となる。

研究代表者の田上は、警察/検察、裁判官、児童相談所、子どもの権利擁護弁護士、医療者と『かながわ子ども虐待勉強会』として2016年から年二回、神奈川県立子ども医療センターで開催してきた。この勉強会の資料を編集し、乳幼児の頭部外傷（Abusive Head Trauma: AHT）、傷痕の診断、虐待による熱傷、ネグレクトによる衰弱、虐待による骨折などの勉強会の資料を作成した。HACAC連絡協議会の医療機関は先進的に虐待対応

を行っている施設であるため、各地域のなかで多機関での勉強会の実施している施設も多い。既に勉強会などが実施されている地域に赴きオブザーバー参加した。また、そのような勉強会がない地域では、地域の方々と連携をとりながら多機関での勉強会を実施した。

- CACネットワーク (Hospital association for CAC: HACAC連絡協議会)

子ども虐待に積極的に取り組んでいる協力施設と二か月に一度WEBでの情報交換会を行った。新たに千葉こども病院、函館中央病院、仙台市立病院も参加することとなった。

(3) 成果

- 系統的全身診察の普及プロジェクト

系統的全身診察についての性虐待対応の研修プログラムを新たに作成した。2023年10月14.15日に講師陣が横浜に集まり、デモ研修した。



プログラムの最終チェックのために、横浜でのデモ研修。

2024年1月20.21日に第一回包括的性虐待対応プログラム研修として群馬県前橋市で実施した。医療者、警察、検察、児童相談所職員など約20名が参加した。



第一回包括的性虐待対応プログラム

研修を振り返るとともに、課題解決に向けて、2024年5月10日、性虐待の診療では第一人者であるマーティン フィンケル教授を招き、webで勉強会を開催した。プログラムの微調整を行い、9月に名古屋で第二回の研修を行う。



ZOOMでのマーティン フィンケル講義

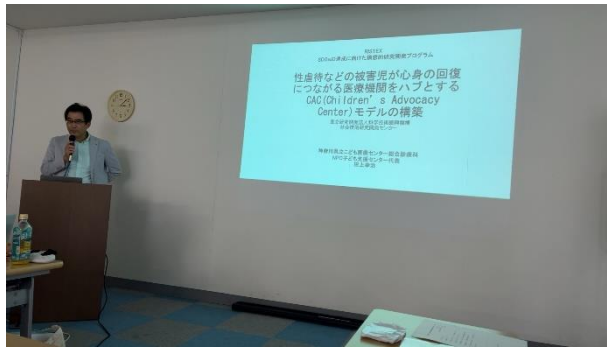
● MDT 促進プロジェクト

2023/7/27 北九州市立八幡病院のMDT会議に参加し、聴講した

2023/9/1 千葉県のMDT会議に参加し、講義を行った。

2023/10/10 第一回愛知、名古屋MDT勉強会開催 症例検討と講義を行った。

2024/3/15 京都MDT勉強会 京都第一赤十字病院こどもと家族のサポートチーム主催研修会「性虐待の具体的な対応」講義を行った。



千葉でのMDT会議に出席し講義をする様子

● CAC モデル事業

神奈川版CACモデルについては、2024年3月の神奈川県議会において、佐々木正行議員が性虐待被害児の系統的全身診察について質問があった。県こども家庭課長、警察少年育成課長、知事が答弁した。知事は「性的虐待事案について、初期の段階から児童相談所と医療機関が連携し、医療面も含めた子どもを支援する体制づくりを進めます。さらに、将来的には、児童相談所と医療機関が中心となって、警察、保育・教育機関など、多くの関係機関と連携し、性的虐待を受けた子どもを守り、ケアする仕組みについて検討してまいります。」

今後、県こども家庭課、県中央児童相談所と当院が協議し、取り交わし、神奈川版CACモデルを実践していく。

この神奈川版CACモデルの構築を進めていき、これがプロトタイプとして全国のこども病院を中心とした医療機関でこのシステムを構築する。



マネジメントシステムについて、National Child Alliance はCACの設置基準を定めている。これをもとに本邦での設置基準を作成している。

日本版CAC設置基準

2024年1月13、14日にNPO CFJと共催でNational Children's Advocacy Center のスーザン スキナー氏をお呼びし、第25回子ども虐待防止シンポジウム「CACはなぜ、必要なのか？」を開催した。

- CACネットワーク（Hospital association for CAC: HACAC連絡協議会）
新たに3つの医療機関も加わり、プログラムの作成や情報共有を行っている。



神奈川県立こども医療センター
前橋赤十字病院
あいち小児保健医療総合センター
沖縄県立中部病院
茨城県立こども病院
北九州市立八幡病院
国立成育医療研究センター
四国こどもとおとなの医療センター

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
日本フォレンジックヒューマンケアセンター
総合病院国保旭中央病院
兵庫県立尼崎総合医療センター
千葉こども病院（新規）
仙台市立病院（新規）
函館中央病院（新規）

（4）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- 系統的全身診察の普及プロジェクト
系統的全身診察についての性虐待対応の研修プログラム（包括的性虐待対応プログラム）を作成した。2024年9月28、29日に二回目を実施するが、講師陣が多忙なことからも人材育成をしていく必要がある。これまで虐待対応プログラムBEAMSの研修及び講師の育成も行ってきたことから、BEAMS講師の中から本プログラムの講師にな

る人材も育成する必要がある。

- **MDT 促進プロジェクト**
各地域のなかでMDTの醸成はもっとも難しい。特に多機関連携での勉強会の立ち上げなどには今後とも地域の中で熱心に虐待対応されている人と連携し、サポートしていく必要があるだろう。
 - **CAC モデル事業**
この神奈川版CACモデルの構築を進めていき、これがプロトタイプとして全国のこども病院を中心とした医療機関でこのシステムを構築する必要がある。これには各地域でのMDTの醸成が欠かせない。また、医療機関のなかでCACモデルを実行していくためには、ハード面、ソフト面でのいくつもの課題がある。これらは解決するためにはある程度、トップダウンでの強制力が必要である。全国で10数か所のモデル事業として、国の政策として、性虐待対応拠点病院として整備され、ある一定の支援のもと運営される必要があると考える。
- マネジメントシステムについて、National Child Alliance のCAC設置基準をもとに本邦での設置基準を作成している。米国での基準をみたすのは現状ではハードルが高く、米国との制度の違いもあり、HACAC医療機関とも協議しながら、子どもの安心、安全を確保できる基準を作成する必要がある。
- **CACネットワーク（Hospital association for CAC: HACAC連絡協議会）**
昨年度は包括的性虐待対応プログラムのプログラム作成についての話がメインであった。今後、様々な事業についての検討が必要であるが、多忙の中で短時間に身のある会議にしていく必要がある。

2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2023/5/18	HACAC会議	ZOOM	包括的性虐待対応プログラム作成
7/2	HACAC会議	尼崎	包括的性虐待対応プログラム作成
9/21	HACAC会議	ZOOM	包括的性虐待対応プログラム作成
10/14. 15	模擬研修	横浜	包括的性虐待対応プログラム
2024/1/20. 21	研修	前橋	包括的性虐待対応プログラム
3/21	HACAC会議	ZOOM	研修の振り返り
5/10	勉強会	ZOOM	マーティンフィンケル講師

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

4. 研究開発実施体制

系統的全身診察の普及グループ

- ① 溝口史剛（前橋赤十字病院小児科）
- ② 実施項目

性虐待対応の研修プログラムを作成する。この研修事業を全国で行う。講師などの係わる人材育成を行う。

CACモデル事業グループ

- ① 田上幸治（神奈川県立こども医療センター）
- ② 実施項目

県中央児童相談所と病院が早期に情報を共有し、聞き取り、診察の日程調整。児童相談所の聞き取り、司法面接、系統的全身診察の情報を捜査、調査、支援、心のケアに利用する。早期からの情報共有で、司法面接、系統的全身診察、心のケアをワンストップで対応。小児科医（総合診療医）が長期的なフォローを行い、必要であれば児童精神科、精神科に相談する。

MDT促進事業グループ

- ① 田上幸治（神奈川県立こども医療センター）
- ② 実施項目

児童相談所や警察/検察と医療機関での子ども虐待の勉強会がない地域で勉強会を開催していき、各地域の中でMDTを醸成させていく。

CACネットワークグループ

- ① 田上幸治（神奈川県立こども医療センター）
- ② 実施項目

医療機関に併設されたCACもしくはCACを目指す活動を行っている組織を中心にCACネットワーク（HACAC連絡協議会）を設立した。HACAC連絡協議会として、二か月毎にZOOMで会議を行い、さまざまな地域でのCACモデルの構築を目指す。

5. 研究開発実施者

系統的全身診察の普及グループ (リーダー氏名：溝口 史剛)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
溝口 史剛	ミゾグチフミタケ	前橋赤十字病院	小児科	副部長
毎原 敏郎	マイハラトシロウ	兵庫県立尼崎総合医療センター	部長	代表理事
栗原 八千代	クリハラヤチヨ	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	医長	調査員
森 里美	モリサトミ	神奈川県立こども医療センター	総合診療科	医長
川口 真澄	カワグチマスミ	沖縄県立中部病院	小児科	医長
本山 景一	モトヤマケイイチ	茨城県立こども病院	小児科	医長
神薊 淳司	カミゾノジュンジ	聖ルチア病院	精神科	医長
田上 幸治	タノウエコウジ	神奈川県立こども医療センター	臨床研究室	部長

CACモデル事業グループ (リーダー氏名：田上 幸治)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
田上 幸治	タノウエコウジ	神奈川県立こども医療センター	臨床研究室	部長
森 里美	モリサトミ	神奈川県立こども医療センター	総合診療科	医長
林 辰司	リンタツジ	神奈川県立こども医療センター	総合診療科	医長
田中 真理奈	タナカマリナ	神奈川県立こども医療センター	総合診療科	レジデント
滝崎 奈穂	タキザキナホ	神奈川県立こども医療センター	総合診療科	レジデント

MDT促進事業グループ (リーダー氏名：田上 幸治)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
田上 幸治	タノウエコウジ	神奈川県立こども医療センター	臨床研究室	部長
神菌 淳司	カミヅノジュンジ	聖ルチア病院	精神科	医長
木下 あゆみ	キノシタアユミ	四国こどもと となの医療セン ター	小児科	医長
植松 悟子	ウエマツサトコ	国立成育医療研 究センター	総合診療科	医長
栗原 八千代	クリハラヤチヨ	聖マリアンナ医 科大学横浜市西 部病院	小児科	医長
毎原 敏郎	マイハラトシロウ	兵庫県立尼崎総 合医療センター	小児科	部長
仙田 昌義	センダマサヨシ	総合病院国保旭 中央病院	小児科	医長
川口 真澄	カワグチマスミ	沖縄県立中部病 院	小児科	医長
本山 景一	モトヤマケイイチ	茨城県立こども 病院	小児科	医長

CACネットワークグループ (リーダー氏名：田上 幸治)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
田上 幸治	タノウエコウジ	神奈川県立こども医療センター	臨床研究室	部長
毎原 敏郎	マイハラトシロウ	兵庫県立尼崎総合医療センター	小児科	部長
神菌 淳司	カミヅノジュンジ	北九州市立八幡病院	部長	代表理事
木下 あゆみ	キノシタアユミ	四国こどもと となの医療セン ター	小児科	医長
栗原 八千代	クリハラヤチヨ	聖マリアンナ医 科大学横浜市西 部病院	小児科	医長

仙田 昌義	センダマサヨシ	総合病院国保旭 中央病院	小児科	医長
川口 真澄	カワグチマスマ	沖縄県立中部病 院	小児科	医長
本山 景一	モトヤマケイイチ	茨城県立こども 病院	小児科	医長
加藤 美穂子	カトウミホコ	あいち小児保健 医療総合センタ ー	脳外科	医長
片岡 笑美子	カタオカエミコ	日本フォレンジ ックヒューマン ケアセンター		会長
石倉 亜矢子	イシクラアヤコ	函館中央病院	小児科	医長
守谷 充司	モリヤミツジ	仙台市立病院	小児科	医長
森吉 研輔	モリヨシケンスケ	八幡病院	小児科	医長

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

- 第29回日本子ども虐待防止学会学術集会 大津市 2022/11/26 公募シンポジウム「子どものためのワンストップセンターの実践と展望」系統的全身診察について 田上幸治（神奈川県立こども医療センター）
- 第70回日本小児保健学会学術集会 東京都 2023/6/16 シンポジウム1「子どもの性被害・性虐待に立ち向かう」
- 日本子ども虐待防止学会 第30回学術集会かがわ大会で系統的全身診察普及プログラムについて報告する

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2024年1月 13.14日	第25回子ども虐待防止シンポジウム	NPO CFJと共催	横浜	50名	National Children's Advocacy Center のスーザン スキナー氏をお呼びし、「CACはなぜ、必要なのか？」をテーマ

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

田上幸治:性虐待を受けた子どもへのワンストップなケアを.世界2024.4月号.214-220.

(2) ウェブメディアの開設・運営

(3) 学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- 警察庁 児童虐待事件に関する全国捜査担当者研修 東京都 2023/6/22 「AHT について」発表者 田上 幸治（神奈川県立こども医療センター）
- 最高検察庁 東京都 2023/9/19 「AHTの司法的な事柄について」発表者 田上 幸治（神奈川県立こども医療センター）
- 東京都特別区 児童虐待研修 2023/6/22-23 「性虐待について」発表者 田上 幸治（神奈川県立こども医療センター）
- 性犯罪被害者の対応についての研修 横浜市 2024/2/15 「子どもの性虐待の現状と課題」田上 幸治（神奈川県立こども医療センター）
- 神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター 2024/2/17 「子どもの虐待対応」発表者 田上 幸治（神奈川県立こども医療センター）

6-3. 論文発表

なし

6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

（1）招待講演（国内会議1件、国際会議0件）

・第65回日本小児神経学会学術集会 岡山市 2023/5/25 シンポジウム7『乳幼児重症頭部外傷後遺症に対する小児神経科医の役割』乳幼児重症頭部外傷後遺症の慢性期経過
田上幸治（神奈川県立こども医療センター総合診療科）

（2）口頭発表（国内会議2件、国際会議0件）

・第29回日本子ども虐待防止学会学術集会 大津市 2022/11/26 公募シンポジウム「子どもどものためのワンストップセンターの実践と展望」系統的全身診察について 田上幸治（神奈川県立こども医療センター）
・第70回日本小児保健学会学術集会 東京都 2023/6/16 シンポジウム1「子どもの性被害・性虐待に立ち向かう」

（3）ポスター発表（国内会議0件、国際会議0件）

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

（1）新聞報道・投稿（1件）

・田上幸治.官民で性虐待の対応強化を.毎日新聞.2023.12.21.11面.

（2）受賞（0件）

（3）その他（0件）

6-6. 知財出願

（1）国内出願（0件）

（2）海外出願（0件）

以上